

JICA海外協力隊について

JICA青年海外協力隊事務局
参加促進課

- JICA海外協力隊とは
- 連携派遣について

JICA海外協力隊とは

JICAボランティア事業（青年海外協力隊）

1965年からの歴史

1965年にラオスへの初代隊員派遣から始まり

発足以来、約60年間で **99** カ国へ、

（アジア、アフリカ、中東、北米中南米、大洋州、欧州）

約56,000名 以上の隊員が
派遣されました。
（2024年現在）

JICAボランティア事業

3つの目的

開発途上国の経済・社会の発展、
復興への寄与

異文化社会における
相互理解の深化と共生

ボランティア経験の社会還元

JICA海外協力隊

開発途上国の国づくりに貢献できる人材を現地へ派遣

通常は **2** 年間



現地の人々と一緒に世界各国の課題に挑戦



帰国後は日本をはじめとした様々な国や分野で
グローバル人材としての活躍が期待されている

未来に必要なとなる人材

■未来人材会議（経済産業省）

- ① 常識や前提に捉われずに、ゼロからイチを生み出す能力
- ② 1つのことを掘り下げていく姿勢
- ③ グローバルな社会課題を解決する意欲
- ④ 多様性を受容し、他者と協働する能力

■教育未来創造会議（内閣府）

未来を支える人材として「好きなことを追究して高い専門性や技術力を身に付け、自分自身で課題を設定して、考えを深く掘り下げ、多様な人とコミュニケーションをとりながら、新たな価値やビジョンを創造し、社会課題の解決を図っていく人材」としている。

JICA海外協力隊が“育てている人材

JICA海外協力隊の活動とは

「自ら考え、動く人材に育てて欲しい」という声はよく耳にします。「考えない」人材から「考える」人材に成長するには？



たくさんの正解のない問いに触れ、自らも問いをつくること
ができる能力を身につけていくプロセス



途上国は正解のない現場。JICA海外協力隊の活動は自ら問い（課題）を設定し、多様性を受容し、他者と協働するなかで考え、社会課題を解決する活動。

協力隊参加で得られるもの

- 日本では経験できない途上国の厳しい環境で尽力することで成長し、現場経験を通じて「交渉力」「突破力」「実現力」「コミュニケーション能力」等を身に付ける事が期待されます。
- その国の社会、言語、文化、（商）習慣に精通し、人脈も有する JICA海外協力隊経験者は、当該国はもちろんの事、他の国であっても即戦力候補です。
- JICA海外協力隊の経験を評価して経験者を積極的に採用する自治体、教育委員会、企業、団体も増えています。

派遣前訓練

● 長期派遣（1年以上の派遣）が対象 ※語学訓練を中心

派遣前訓練概要

合宿形式でオンラインと対面を組み合わせて実施

■期間：60～70日程度

■場所：JICA 二本松青年海外協力隊訓練所（福島県）または
JICA 駒ヶ根青年海外協力隊訓練所（長野県）

派遣前訓練内容

JICA海外協力隊の基礎



語学訓練



健康・安全管理



異文化理解



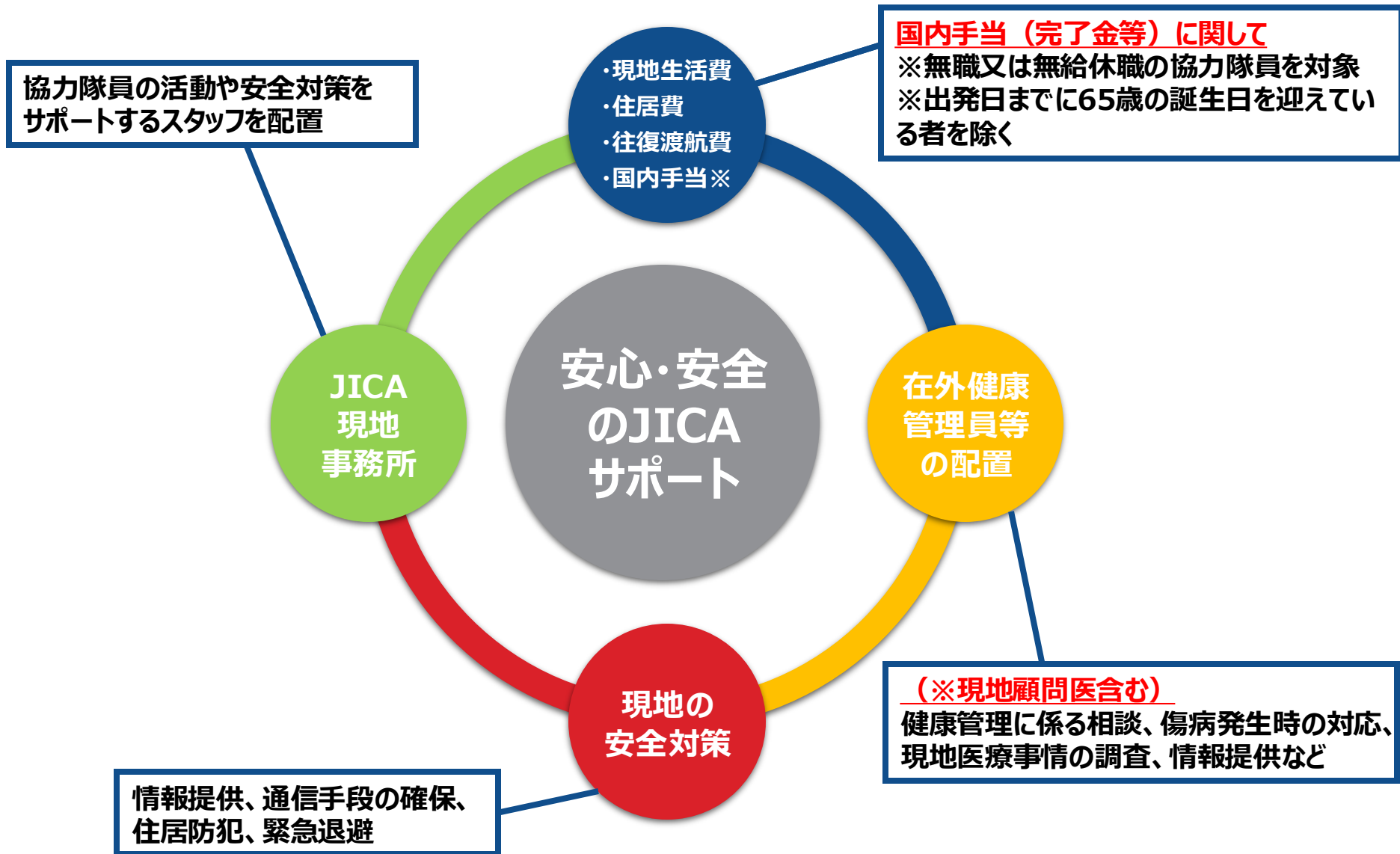
協力活動（地域実践）



派遣予定時期

訓練修了時点から1ヶ月～2ヶ月後となる予定

JICAの支援体制（派遣中）



参加者：

- ◆満20歳～69歳（応募時）
- ◆派遣される要請についての知識・技術・経験等を有する方
- ◆心身共に健康な方
- ◆日本国籍を有する方
- ◆基礎的な語学力を有する方（TOEIC330点以上等）
- ◆JICA海外協力隊として活動する意思を有する方

応募の方法 ← 一般応募と同じ

一般応募（長期）と同じで、マイページ登録から始める。

1 JICA海外協力隊ウェブサイトから
マイページを作成して基本情報を登録してください。

■JICA海外協力隊
マイページ作成画面



マイページを作成すると、IDが発行され、
登録したアドレスにメールが届きます。

2 マイページ作成時に発行された
IDとパスワードを入力し、マイ
ページにログインしてください。

参考 24春募集要項 [guideline.pdf \(jica.go.jp\)](https://www.jica.go.jp/guideline.pdf)

健康診断書の提出

- マイページ作成後に応募画面からダウンロードできる健康診断書様式を最寄りの医療機関にお持ちの上で健康診断を全項目受診し、問診票とあわせて健康診断書を指定の宛先まで郵送してください。
- 締切は「必着」で、消印有効ではないので、早めに受診してください。
- 受診費用には一定額の補助があります。
- 提出締切日は応募時期の最終日必着（要確認）

- 応募者調書：

（応募者基本情報、 応募職種・要請・ 志望動機） 学歴、資格を証明するものを合格後にご提出いただく可能性があります。学歴、所持 されている資格については正確に記入してください。合格後、記載内容に虚偽があった場合は、合格、派遣を取り消すことがあります。選考はご提出いただいた書類にも とづいて行います。ご自身の経験を具体的に記入してください。

- 語学力申告：

語学力目安表を参照し、公式語学証明書をアップロードしてください。

- 適性テスト：

ウェブ応募完了後、適性テストを開始できるようになります。必ず受検してください。

一般応募と同様の流れで審査がありますが、技術審査は免除されます。

● 一次選考

- ✓ 書類審査：応募書類をもとに総合的に一次審査します。
- ✓ 語学力審査：語学力証明書をもとに審査します。
- ✓ 適性テスト：ウェブ版となります。受検は必須です。
- ✓ 健康審査：応募時に提出された「問診票」および「健康診断書」をもとに応募者の健康状態を審査します。

● 二次選考（オンライン）

- ✓ 人物審査：JICA海外協力隊としての適性について、人物、技術の観点から面接を行います。
- ✓ 技術審査は連携派遣の制度では免除され、団体から推薦書を提出してもらい確認しています。

合格後の流れ

合格後、しかるべきタイミングで訓練を受けて頂きます。
(駒ヶ根訓練所、または二本松訓練所)

■2024年度3次隊：2025年1月～

■2025年度1次隊：2025年4月～

■2025年度2次隊：2025年8月～

※上記のうち、いずれかの全日程に参加していただきますので、
現在勤務先がある方は、休暇等の措置を取る必要があります。

※訓練の時期は変更になる場合があります

訓練中に、派遣の手続きやオリエンテーション、派遣国事情、
ワクチン接種等があります。

連携派遣について



慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科（社会イノベータコース：以下、慶應SFC）のプログラムはこの制度を活用しています。

制度の目的

- (1) 開発途上国各国の状況を踏まえたJICAの事業計画等に合致した隊員の効率的かつ継続性のある派遣を目指します。
- (2) 開発途上国への貢献およびグローバル人材の育成や多文化共生の推進など、国内の地域における課題、組織における課題解決にも寄与するために本事業を活用する提案団体と連携を進めます。

JICA海外協力隊の募集

- ・一般公募：個人が主体

「JICA海外協力隊」は、通常、一般公募として春と秋の年 2 回募集期があり、個人が自分の能力を途上国からの要請案件一覧に照らして、職種を決めて応募する。2 年間の通常の派遣と、半年間程度の短期派遣が一部ある。

- ・連携派遣：団体が主体

「JICA海外協力隊（連携派遣）」は、大学や自治体、民間企業等がJICAと連携し、それぞれの組織の職員や社員、学生等をJICA海外協力隊として派遣するもの。



慶應SFCのプログラムはこの制度を活用しています。

連携派遣のメリット

提案団体のメリット：

- ・（共通）JICAの制度と予算で海外に人員を派遣できる。
- ・（大学）学生（グローバル人材）の育成。大学の正規プログラムとして位置付けることで大学の魅力化の実現
- ・（企業）国際性や突破力を持つ人材の育成に加え、現地での事業展開に必要なネットワーク構築や情報収集が行える。
- ・（自治体）姉妹都市や地元出身者の海外移住地への支援や関係強化等に制度を活用できる。

・ 本人が得るものを提案団体に還元できることが大きなメリット

・ 協力隊の枠組みを利用し、海外に貢献しつつ人材育成にも活用できる

（目的）

- 国内地域での地域おこし協力隊活動及び開発途上国での海外協力隊の活動を行い、地域おこしと国際協力の相乗効果のある「グローバル研究プロジェクト」を設定して、自ら挑戦する人材への支援・助言を行うもの
- 大学院でのコースワークによる社会課題解決のプロフェッショナル（＝社会イノベータ）の育成を行いながら、海外協力活動、地域おこし活動にも従事し、地域の未来に資する人材の育成と実学を推進
- 本プログラムの実施を通じて三条市への移住・定住及び地域の活性化を図る

（内容）

- 3つの制度・コースを平行して推進するプログラムの構築
 - ①自治体の制度（地域おこし協力隊インターン、地域おこし協力隊(研究員)）
 - ②JICAの制度（JICA海外協力隊（想定1年＆派遣前訓練））
 - ③慶應義塾大学SFCのコース（大学院政策・メディア研究科 社会イノベータコース（原則2年））

	準備期間	1年目		2年目		3年目	4年目	5
地域おこし協力隊 （研究員）	（説明会参加・準備活動）	地域おこし協力隊 （最長90日・報償費）※1		（国内地域と連携した活動 （オンライン））※2	応募 選考	地域おこし研究員 （1～3年間・報償費&活動費）		
	（説明会参加・準備活動）	地域おこし研究員 （1年以上・報償費&活動費）※1		（国内地域と連携した活動 （オンライン））※2		地域での活動・定住※2		
JICA海外協力隊	（説明会参加・準備活動）	応募・選考	派遣前 訓練※3	JICA海外協力隊派遣 （1年間・国内手当&現地生活費）※3		（在外地域に貢献可能な研究・活動）		
SFC大学院生	研究計画作成・大学院入試	キャンパス （出張）	連携地域 （オンライン&出張）	在外活動 （オンラインでの研究指導期間。 自らの判断で休学も可能）		連携地域 （オンライン&出張）	（研究活動）	

※1 活動期間終了時に、継続的に、地域との連携した研究や在外活動、事業化、移住などを行うときに、活用・応募可能な制度・時期等に関する情報を三条市より提供
※2 三条市から提供される情報をもとに、活動支援機関がサポート ※3 派遣前訓練・在外活動の時期・期間は、適宜、相談・調整

ご清聴ありがとう
ございました